

## ■テーマ展

## 岩手の溪流と釣人

会期 平成19年11月23日(金・祝日)～平成20年2月11日(月・祝日) 会場 特別展示室

岩手が他に誇れるもののひとつとして、誰もがその自然のすばらしさを挙げます。県下を流れる数々の美しい川もそのなかのひとつです。シーズンともなると、県内各地の川は魚たちとの出会いを心待ちにした太公望たちでおおいに賑わいますが、驚くのは、関東・関西圏など、県外からも実にたくさんの釣り人がやってくることです。地元に住む私たちにはあまり実感がなく、岩手のフィールドは都会の釣りファンにとって、憧れの場所なのです。

本展では、美しい岩手の溪流とそこに棲むいきものたち、そして、清流と魚に魅せられた釣り人たちと創造性溢れる釣り道具等を紹介するとともに、釣り人の視点から見たよりよい人と川との関わり方について考えます。



カワジンジュガイ

～岩手の溪流「水深50cmの世界」より～  
撮影 米澤 豊氏(写真家)

## ◇プロローグ

## 写真展～岩手の溪流「水深50cmの世界」～

川に立ち込む釣り人の膝下に広がる水深わずか50cmの領域。海や底深い淵とは異なり一見とても窮屈そうに思えるその空間には、意外にも私たちの想像を超える世界が広がっていました。

ここでは、ピンホール写真や「ヨネザワブルー」と呼ばれる独特の色使いでその名を知られる写真家の米澤豊氏(盛岡市在住)が、県内各地の川に潜って撮影した水と光の織りなす不思議な水中の世界をご覧いただけます。



フタスジモンカゲロウ成虫  
写真提供：北里大学水産学部

## 1 溪流で出会ういきものたち

溪流というフィールドでは、魚に限らず実に多くのいきものたちと遭遇します。植物や昆虫まで含めると、その数には限りがありません。ここでは、それらのなかから、釣り人がよく見かける、或いはとても気にかけているいきものたちを剥製やパネルで紹介します。

展示するいきものたちのなかには、人間にとって大変危険なものも含まれていますが、本来山や川はいきものたちの生活の場であり、釣り人をはじめとする人間は彼らにとって迷惑な闖入者にすぎません。ですから、川へ出かける際は、あまり彼らを驚かさないう、生活環境を乱さないよう心がけたいものです。

## 2 岩手にはいい川がある



川の風景

撮影 村田 久氏(作家)

風景を眺める。川べりを散歩する。河原でバーベキューをする。川とのふれあい方・楽しみ方は人それぞれです。当然、「いい川」の条件もまた人それぞれでしょう。

では、釣り人にとって「いい川」とはどのようなものなのでしょうか。

実は、この「釣り人にとってのいい川」は、そこで暮らす魚にとってもいい川(棲みやすい川)なのです。魚がいなければ釣りは成立しませんから、これは当然のことです。ただ一点、釣り人の存在についてだけは魚と釣り人の意見が異なると思いますが…。

ここでは、釣り人やそこに棲む魚をはじめとするいきものたちにとっての「いい川」とはどのようなものなのかを、具体的な条件を挙げながら考えます。



盛岡毛鉤の製作：櫻井善治氏

## 3 岩手には優れた釣人がある

ここで言う釣人とは、優れた技を持つ釣りの達人と釣り道具の製作者を指します。二者はけっして別物ではなく、両方を兼ね備えている場合がほとんどです。この章では、全国レベルの著名な釣り人たちを筆頭に、県内各地で活躍されている方々の作品や活動を紹介します。

展示をご覧になっていただければわかるのですが、釣り人たちが作ったり使ったりしている道具類は、どれも皆洗練された機能美を有しています。加えて、実用性だけを追求するのではなく、そこにはある種の芸術性や遊び心を感じとることもできます。

盛岡竿や盛岡毛鉤などの伝統的な道具類はもちろんのこと、ここでは、県内で製作されているハンドメイドの洋竿やフライ(西洋毛鉤)・ルアーなども合わせて展示します。釣り人たちの長年の経験と飽くなき探求心によって生み出された道具の数々をどうぞお楽しみください。



盛岡竿の製作(火入れ)・盛岡毛鉤  
製作 石澤 弘氏(石澤和竿毛鉤工房)



カーボンロッドの製作  
製作 宇田 清氏(Campanella)



ヤマメ剥製  
製作 佐々木一志氏(ササキ屋)

#### 4 釣り与环境保全

残念なことです。釣り人の中には山や川にゴミを置いていたり、地元の方の邪魔になるような駐車をするなど、マナーの悪い者もおります。けれども、普段から川や魚に親しんでいる釣り人のほとんどは、魚たちが棲む美しい川と景観を残し、これから先も豊かな自然の中で釣りを楽しみたいと願っています。

しかし、そんな思いとは裏腹に、岩手の川や魚を取り巻く環境は、全体的に見ると年々悪化しているというのが現実です。そして、そのような変化は、普段溪流に足を踏み入れることのない大多数の県民が知らないうちにどんどん進行しています。水質汚染、生態系への配慮に乏しい開発や工事、外来魚の無断放流、釣り人の増加による乱獲等々、一見きれいで昔とあまり変わらないように見えても、現在の川には多くの課題が山積しています。

ここでは、こうした問題に対して、県内の内水面関係組織や釣り人の団体が行っている環境保全活動や釣り振興事業などを紹介します。



児童の水生生物調査(平成19年)  
県内水面漁業組合連合会主催

#### ◇エピローグ

釣りを楽しむ遊漁者には、これまで漁業者や行政等に対して何かを主張するような場がほとんどありませんでした。しかし、自然環境保全への社会的関心が高まるにつれ、近年は釣り人が発言せずにはいられない、或いは意見を求められるような機会が少しずつ増えてきています。

平成16年には、釣り人の声を伝え、釣り人の持つ多様な価値観・意見を施策に反映させることを目的とした「釣人専門官」が水産庁に設置されました。本県では、主に河川や湖沼など、内水面における水産動植物の採捕や増殖などに関する事柄を処理する「岩手県内水面漁場管理委員会」のメンバーとして、漁業関係者や学識経験者と共に2名の遊漁者代表が選出されています。

釣り人は、川を取り巻く環境の変化を知る数少ない証人であり、後世へ美しい川といきものたちを残すために役立つ知識と視点を持っています。これを環境保全のために活かさない手はありません。実際、展覧会にご協力をいただいた方々を含め、多くの釣り人の皆さんはそうした活動を地道に

すすめられています。

古き良き昔の姿をご存じの方々には首をかしげるかもしれませんが、全国的にみれば岩手にはまだまだ魅力のある川がたくさん残っています。しかし、こうした美しい自然は、もはや放っておいても維持できるという時代ではなくなっています。治水・利水とのバランスを考慮しつつ、高度成長期以来悪化の一途をたどる山や川の環境をどう守るか、どうしたら生態系に優しい川を保てるかを考え、行動に移すことが大切だと思います。

伊藤浩之(主任専門学芸調査員)

#### 【関連講座】 ※無料

●12月2日(日)13:30~15:00 講堂  
「釣り与自然環境」

講師：村田 久氏(作家)

根深 誠氏(登山家・作家)

詳しくは8ページをご覧ください。

●12月23日(日)13:30~15:00 教室  
「郷土の溪流が育んだ盛岡毛鉤」  
伊藤浩之(当館学芸員)

#### 【展示解説会】 ※入館料が必要です

①11月24日(土) ②1月14日(月・祝)  
いずれも14:00~15:00